



# 社協だより

— 安心して暮らせる福祉のまちづくり —

2022年

9月



No.294

今日は久しぶりに友達に会って良か話と  
演奏ば聞いて楽しかったバイ



## 9月の社協だより

## もくじ

- P2 ふれあい交流会／地域福祉課  
親子講座／地域福祉課
- P3 地域サロン応援隊養成講座／地域福祉課  
高齢者の生きがいがづくり／シルバー人材センター
- P4 みなし仮設住宅／地域支え合いセンター  
福祉座談会／CSW
- P5 社協情報／ひきこもり相談窓口、もの忘れ相談室 など
- P6 地域サロン／小池秋永・下原、惣領1町内、宮園、下陳  
地域を支えるふくしの輪／ワークキャンプ事業

今月号の表紙は「ふれあい交流会」です。新型コロナウイルス感染症が流行し、約2年振りの対面での開催となりました。木山校区は復興まちづくりセンター「にじいろ」で開催しました。

他にも当協議会が行った事業で子育て中のお母さんを対象とした「親子講座」や地域で活躍している方との「福祉座談会」などを行っています。

社協情報には、9月のイベントや相談日等をお伝えしています。

社会福祉法人  
益城町社会福祉協議会

# ふれあい交流会

地域福祉課

## 「ふれあい交流会」2年振りに開催

町内在住の一人暮らし高齢者を対象に、講座やレクリエーション活動を行うことで参加者同士の交流を図り、楽しい時間を過ごしていただくことを目的に例年春と秋の2回行っています。

新型コロナウイルス感染症の影響により2年前から対面での交流会は中止を余儀なくされていましたが、今回は参加者も校区ごとにし、短時間での開催とすることで久しぶりの開催となりました。

心配ごと相談の専門相談員として活躍されている司法書士の松尾英美先生の「たのしい終活講座」やみゆき&オートルズによる懐かしの歌謡曲や童謡のステージなど6月から8月にかけて6回行

いました。各校区で様々な盛り上がりが見せ、楽しく過ごしていただくことができました。対面で開催する良さを改めて感じることができました。



たのしい終活講座を話された松尾英美先生



懐かしの歌謡曲や自作曲を披露されたみゆき&オートルズ



7月21日 広安西校区



7月1日 飯野校区



6月22日 広安校区



8月19日 福田校区



8月5日 津森校区

# 親子講座

地域福祉課

## 親子の触れ合い

8月5日(金)と12日(金)に益城町復興まちづくりセンター「にじいろ」で開催しました。両日ともに、益城町子育て応援会の会はずびーエンジェル代表の本田菜穂子さんを講師として「親子の触れ合いから始まる育児」について話していただきました。参加者からは「2人目で2人同時にぐずった時はどうしたらいいか悩みます。どっちを優先したらいですか」といった質問もあり、参加者同士の意見交換も行いました。

また、親子の触れ合い遊びとして親御さんが口ずさむ歌に合わせて子どもの体を触るスキンシップ法の紹介もありました。

り、可愛い子どもたちの笑顔も見られました。



(8月5日) 新しいママ友ができました



(8月12日) 交流を深めました



親子の触れ合い体操



友達できたよ



カメラ目線も上手です

# 地域サロン応援隊 養成講座

## 地域福祉課

# 新しい協力員が 誕生しました

講座を4回受講していただき22名の参加がありました。第1回目の7月7日(木)は、熊本市託麻原校区社会福祉協議会会長の濱和子さんを講師として「繋がり支え合おう。地域の力」について、地域活動として「地域サロン」を住民主体で行うことの大切さについて話していただきました。第2回から第4回目は、日本レクリエーション協会スポーツレ

クリエーション指導者の横田真佐子さんを講師として「道具を使わないレクと使うレクの実践」「自己分析と対人援助」について話していただきました。最終日には、サロンでレクリエーションを指導する設定で、グループごとに内容も皆さんで考えて実践していただきました。

今後はお住まいの地域サロンで協力員として活躍していただきますので、よろしくお願いたします。



講師の濱和子さん



講師の横田真佐子さん



体を使ったレクリエーション



時間内に紙コップを重ねるゲーム



講座中は笑顔があふれていました



できあがったちぎり絵の作品



新聞や広告でちぎり絵作成中

# 高年齢者の生きがい づくり

## シルバー人材センター



氏名 増田 英一  
所属 一般作業班  
(3班)

### 会員登録のきっかけ

体調を崩し退職後、体力づくりのためと以前は建築業に就いており仕事も町外が多く、町のことをよく知

らなかつたので、退職後時間に余裕もでき生まれ育った地元のことを知りたいと思ひ登録しました。

**活動をとおして思うこと**  
楽しいです。人のために体を動かし、会員さんや依頼者の方と話をすることで町のことも詳しくなり、充実した日々を送っています。

### 趣味

鉄道模型が趣味です。震災前までは自宅に専用のスペースを設け、レールのレイアウトをいくつも考え走らせていました。孫にも大変好評でしたが、震災後は押し入れに眠ったままになっています。他には、風

景写真を撮ることです。朝早く散歩する途中で、自分の心が動いた風景を写真に収めています。

### これからやりたいこと

自動車で日本一周旅行をしたいです。それと、自分がこれまで建築業で携わってきた建物の現在の様子を写真に収めに行きたいです。県外に何か所かあるので日本一周旅行も兼ねて行きたいです。

最後に趣味の鉄道模型を公民館などで走らせてみたいですね。子どもだけでなく大人も好きな人は多いと思います。

夢を叶えるためにも日々の活動とおし健康であり続けたいです。



1 シルバー人材センターでの作業の様子



2 趣味の写真(朝焼け)



3 趣味の鉄道模型

### 入会希望の方へ

現在、事前予約制による個別入会説明会を実施しています。入会希望、活動内容について何かありましたらご連絡ください。

☎ 096-289-6092

# 会員紹介 ～タスキ～

No.28

# みなし仮設住宅

## 地域支え合いセンター

### 地域の笑顔をご紹介

今回は、みなし仮設住宅から益城町の元地である宮園に自宅再建された河田三知雄さん（93歳）家族をご紹介します。

震災後、お孫さん3人を含め7人で熊本市中央区渡鹿のみなし仮設住宅に住まわれており、宮園に戻るまでの5年8か月の間にお孫さんは3人とも結婚され、現在は息子の文敏さん（64歳）、嫁の智子さん（64歳）、弟の紀善さん（82歳）の4人で生活されています。

#### みなし仮設の生活はどうでしたか

**文敏さん** 知人のアパートをみなしとして借りていましたが、全く知らない場所であった人もいませんでした。また（文

敏さんと智子さんは）町内で仕事をしているので、当時は渡鹿からの通勤は渋滞し、1時間前には出発していたので大変でした。

#### 宮園に戻ってからはどうですか

**三知雄さん** ここに長く住んでいたが、再建後徐々に戻って風景も変わり、知った人も少なくなり寂しいが、毎週末に孫、ひ孫が遊びに来てくれるのが楽しみです。

**文敏さん** 家庭菜園を父のアドバイスを受けながら夫婦で楽しんでます。

近所付き合いを大切に、お互い助け合っってしっかり繋がっていききたいです。



写真左から文敏さん、三知雄さん、紀善さん、智子さん



庭の家庭菜園も立派です

# 福祉座談会

## コミュニティソーシャルワーカー

### 安永2町内、辻団地で開催

地域の課題や困りごとの情報共有、解決に向けた支援を目的に行政区別の福祉座談会を7月12日（火）安永2町内、7月26日（火）辻団地で開催しました。当日は、区長、民生委員、高齢者相談員等の地域で活躍している方、役場、地域包括支援センターが参加して実施しました。

意見交換では、参加者の方々から、訪問する中で困っていることや地域の自慢、要望等について意見を出していただきました。その中で「訪問しても応答がないときが心配」「近所から夜に電気ができていないと連絡があり確認に行っていた」「家族が入院して1人のため、生活

参加された方々の熱心な活動の様子を知ることができました。聞き取った意見や課題については、支援機関や地域の関係者等と情報共有し、連携して解決に向けた支援を行っていきます。

CSW事業に取り組み中で、公のサービスや法律制度では支援が困難な問題や複雑・複合化した問題に対し、地域の関係者や支援機関等と協働で重層的に支援していくことが求められています。今後、このような問題は増えていくと予想されており、より連携が必要になると感じています。

今後も他の行政区でも定期的に座談会を開催する予定です。



困りごとや課題の共有の様子（安永2町内）



区長さん、民生委員さん、高齢者相談員さんの活動範囲の確認（辻団地）

# 社協情報

当協議会で行っているイベントや相談日等を掲載しています。詳細は、お気軽にお尋ねください。

## ◇ひきこもり相談窓口

「ひきこもり」に悩んでいる方へ

～小さな一歩を踏み出すために～

ひきこもりって?・・・ひきこもりは様々な要因によって対人交流や社会的な参加の場が、長期にわたり少なくなっている状態のことです。誰にでも起こりえますが、長く続くとひきこもり状態から抜け出しにくくなる場合があります。一人で悩まず一緒に考えていきましょう。あなたのタイミングで気軽に相談してください。ご家族や知り合いの方からの相談もお受けしています。

問 地域福祉課

☎096・214・5566

県ひきこもり地域支援センターゆるここ

☎096・386・1177

## ◇もの忘れ相談室

認知症に関する悩みや不安の解決を一緒に考え、医療機関や介護サービス等、必要な機関にご紹介する相談室を開設しています。また、介護に対する悩み相談も受け付けています。

相談日 9月20日(火)

13時30分から 14時30分から

15時30分から

# 報

場所 役場仮設庁舎1階会議室  
※事前予約制です。

問 地域福祉課

☎096・214・5566

## ◇認知症について考えてみませんか

認知症の原因の一つである「アルツハイマー病」。9月21日は「世界アルツハイマーデー」で、9月を「世界アルツハイマー月間」と制定し、世界中で認知症の啓発活動が行われています。

■認知症の約7割はアルツハイマー型認知症

認知症は、脳の病気など様々な原因で脳の細胞が壊れたり、働きが悪くなったりすることで、生活のしづらさを感じる状態のことです。認知症には、その原因によっていくつ種類がありますが、約7割はアルツハイマー型認知症と言われています。

■認知症は誰にでも起こりうる病気です

日本では65歳以上の人の約5～6人に1人が認知症であると見込まれています。益城町の65歳以上人口で算出すると、約二千人が認知症と推計されます。

■益城町でも取り組んでいます

益城町でも行方不明になる恐れがある高齢者を事前に登録する「見守り高齢者等事前登録事業」や認知症の方や家族が気軽に交流できる「認

知症カフェ」、認知症の人を見守る認知症サポートを養成する「認知症サポーター養成講座」、気軽な相談の場「もの忘れ相談室」などを行っています。

また、9月は益城町図書館や小中学校の図書館をお借りして、認知症に関する図書などを展示しています。

問 地域福祉課

☎096・214・5566

## ◇高齢者・障がい者のための成年後見相談会

成年後見制度や相続・遺言、財産管理、福祉サービスの利用などについて、司法書士と社会福祉士が無料で相談に応じます。

秘密は固く守られますので、お気軽にご相談ください。

日時 9月24日(土) 10時から16時

場所 熊本県司法書士会館

(熊本市中心区大江4-4-34)

方法 面談相談(要予約)

☎096・364・2889

電話相談(☎096・364・0800)

※当日のみの相談専用電話番号です

問 熊本県司法書士会事務局

☎096・364・2889

## ◇心配ごと相談

日常生活のちょっとした心配ごとから、土地や相続などの法律に関することまで相談を受け付けています。電話での相談も対応しておりますので、お気軽にご相談ください。

※予約不要(相談対応中の場合はお待ちいただくことがありますので、あらかじめご了承ください)

日時 毎週水曜日

10時から12時、13時から15時

電話 080・8427・8981

(開設時間のみ)

場所 役場仮設庁舎1階相談室

※相談員は左記の表をご覧ください。変更になる場合もあります。

問 地域支え合いセンター

☎096・289・6092

日程	専門相談員	相談員	
9月7日(水)	松尾英美 (司法書士)	岡本壽則 (民生児童委員)	
9月14日(水)	松尾英美 (司法書士)	野口泰喜 (人権擁護委員)	海野秀夫 (民生児童委員)
9月21日(水)	松尾一 (行政相談委員)	堀内敦子 (人権擁護委員)	佐藤廣美 (民生児童委員)
9月28日(水)	橋場紀仁 (行政書士)	富田セツコ (消費生活相談員)	塩田弘人 (民生児童委員)
10月5日(水)	松尾英美 (司法書士)	永田結子 (民生児童委員)	

～つながる地域・住みよいまち～

# 地域サロン

町内の各地域サロンでは、高齢者をはじめ地域の人たちが楽しく集まる空間づくりが盛んに行われています。また介護予防の取り組みや閉じこもりの防止、見守り、仲間づくり、社会参加を目的とした活動などを行っています。

## 小池秋永・下原 小秋の会



場所：小池秋永公民館 日時：毎月22日13時30分

## 惣領1町内ニコニコ健康サロン



場所：惣領1町内公民館 日時：毎月第2金曜日10時

## 宮園きずなサロン



場所：宮園公民館 日時：毎月第2火曜日10時

## 下陳千光寺サロン



場所：下陳公民館 日時：毎月17日13時30分

## 地域を支えるふくしの輪

### ワークキャンプ事業

ワークキャンプ事業は、小学校4年生から社会人までを対象に福祉に対する理解と関心を深めることを目的に、コロナ禍前までは町内の福祉施設等で体験学習を行っていました。コロナ禍の影響でこれまでのワークキャンプの実施が難しくなり、現在は講義形式で開催しています。

今回は7月29日(金)に小学校4年生から中学生を対象に10名の児童・生徒が参加されました。「災害が起きた時、キミならどうする?」と題して、NPO法人バルビーの中村さんと岳中さんを講師に招き、令和2年7月豪雨での活動の話や災害時に必要な防災グッズをみんなで考えました。

誰もが安心して暮らせるまちづくりを支えている活動を紹介します。



缶バッジを自作したり防災グッズを配布しました

2022年

9月

No.294

発行 / 社会福祉法人 益城町社会福祉協議会 会長 西村 博則

〒861-2233 熊本県上益城郡益城町惣領1470  
益城町保健福祉センター「はびねす」内  
TEL/096-214-5566 FAX/096-214-5567  
ホームページ <https://www.mashiki-shakyo.or.jp/>

